

第 10 期吹田健やか年輪プラン（吹田
市高齢者保健福祉計画・介護保険事業
計画）にかかる高齢者等の生活と健康
に関する調査報告書

ダイジェスト版

令和 8 年（2026 年）5 月

吹田市

調査の概要

1. 調査目的

本調査は、令和 9 年度（2027 年度）から令和 11 年度（2029 年度）までを計画期間とする「第 10 期吹田健やか年輪プラン（吹田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画）」の策定にあたり、高齢者の日頃の生活や健康の状況、サービスの利用意向などを把握することを目的に実施しました。

2. 調査の設計

（1）調査の種類

調査区分	調査の対象
①高齢者調査	令和 7 年 12 月 31 日時点で、65 歳以上（要介護 1～5 を除く）の高齢者から無作為抽出した 3,000 人
②要介護認定者調査	令和 7 年 12 月 31 日時点で、65 歳以上の要介護 1～5 の認定を受けている高齢者、かつ在宅で生活をする人から無作為抽出した 2,000 人

（2）調査方法

郵送による配布・郵送と WEB による回収

（3）調査期間

令和 8 年 2 月 11 日から令和 8 年 2 月 27 日まで

3. 回収状況

	配布数	有効回収数	有効回収率
①高齢者調査	3,000 件	2,131 件	71.0%
②要介護認定者調査	2,000 件	1,063 件	53.2%

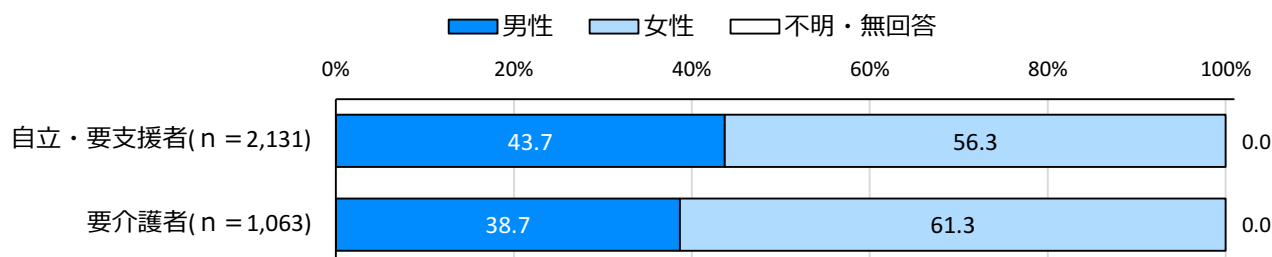
4. 報告書ダイジェスト版の留意点・見方

- 表・グラフに付加されている「n」は質問に対する回答者数を表しています。
- 結果数値(%)は、小数点第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100%にならないことがあります。
- 複数回答の場合、回答者数に対する割合を表示しているため、構成比の合計が 100%を超えます。
- 表・グラフ中の「不明・無回答」の表記について、無記入、回答の読み取りが著しく困難な場合、1 つまでの回答を求めている設問に対し 2 つ以上回答していた場合は「不明・無回答」として処理しています。
- 調査結果で表記している回答者の意味は以下のとおりです。
 - 自立・要支援者：高齢者調査の対象者（自立の人、事業対象者、要支援者）
 - 自立：介護保険の認定等を受けていない 65 歳以上の市民。
 - 要支援者：要支援認定を受けている 65 歳以上の市民。
 - 要介護者：要介護認定者調査の対象者（要介護認定を受けている 65 歳以上の市民）。
 - 主な介護者：要介護者を介護している主な家族・親族等（ホームヘルパー等の介護者は除く）。

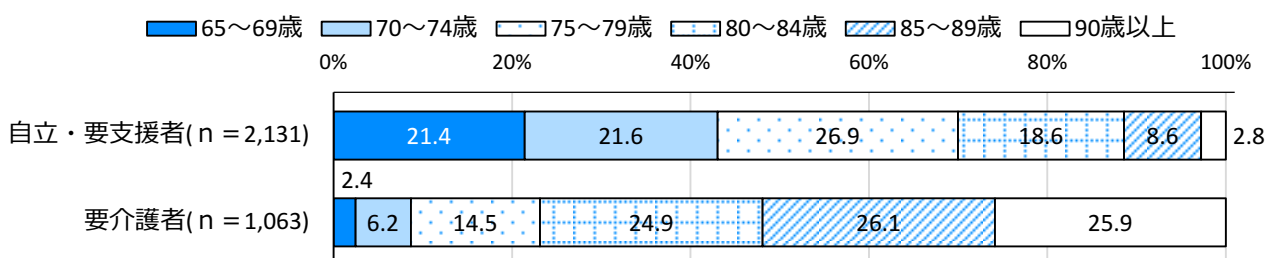
回答者の属性

- ▶回答者の性別は、自立・要支援者では男性 43.7%、女性 56.3%、要介護者では男性 38.7%、女性 61.3%。
- ▶回答者の年齢は、自立・要支援者では前期高齢者 43.0%、後期高齢者 56.9%、要介護者では前期高齢者 8.6%、後期高齢者 91.4%。
- ▶回答者の居住地域は、自立・要支援者では JR 以南地域が 10.2%、片山・岸部地域が 15.8%、豊津・江坂・南吹田地域が 13.3%、千里山・佐井寺地域が 13.0%、山田・千里丘地域が 27.5%、千里ニュータウン・万博・阪大地域が 20.2%。要介護者では JR 以南地域が 12.1%、片山・岸部地域が 13.5%、豊津・江坂・南吹田地域が 12.2%、千里山・佐井寺地域が 12.8%、山田・千里丘地域が 23.8%、千里ニュータウン・万博・阪大地域が 25.5%。

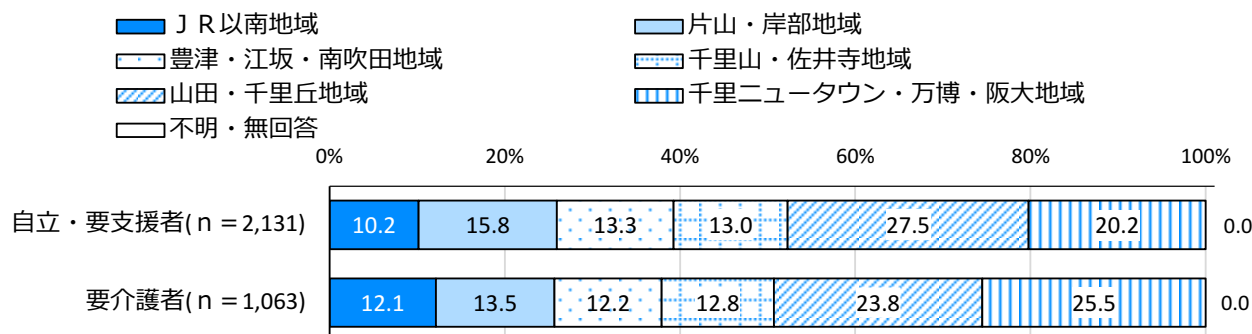
①性別



②年齢

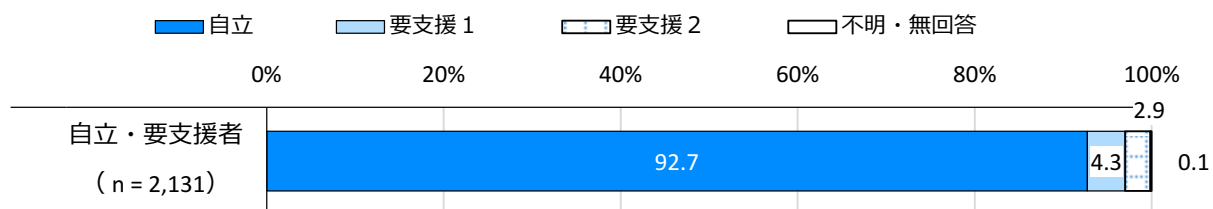


③お住まいの地域（日常生活圏域）

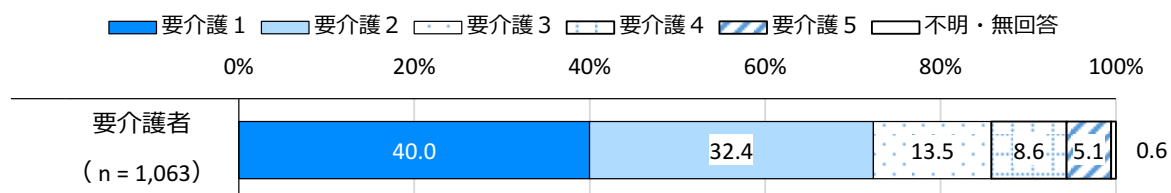


- ▶認定該当状況（高齢者調査）は、自立 92.7%、要支援 1 が 4.3%、要支援 2 が 2.9%。
- ▶要介護度（要介護認定者調査）は、要介護 1 が 40.0%、要介護 2 が 32.4%、要介護 3 が 13.5%、要介護 4 が 8.6%、要介護 5 が 5.1%。

④認定該当状況（高齢者調査）



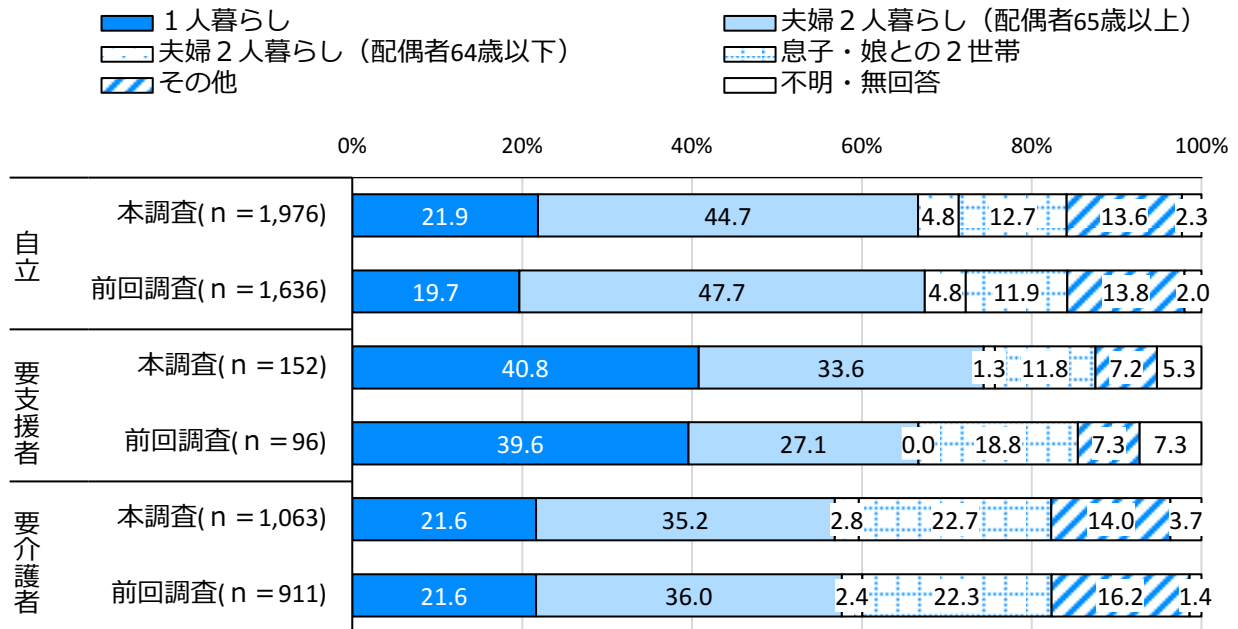
⑤要介護度（要介護認定者調査）



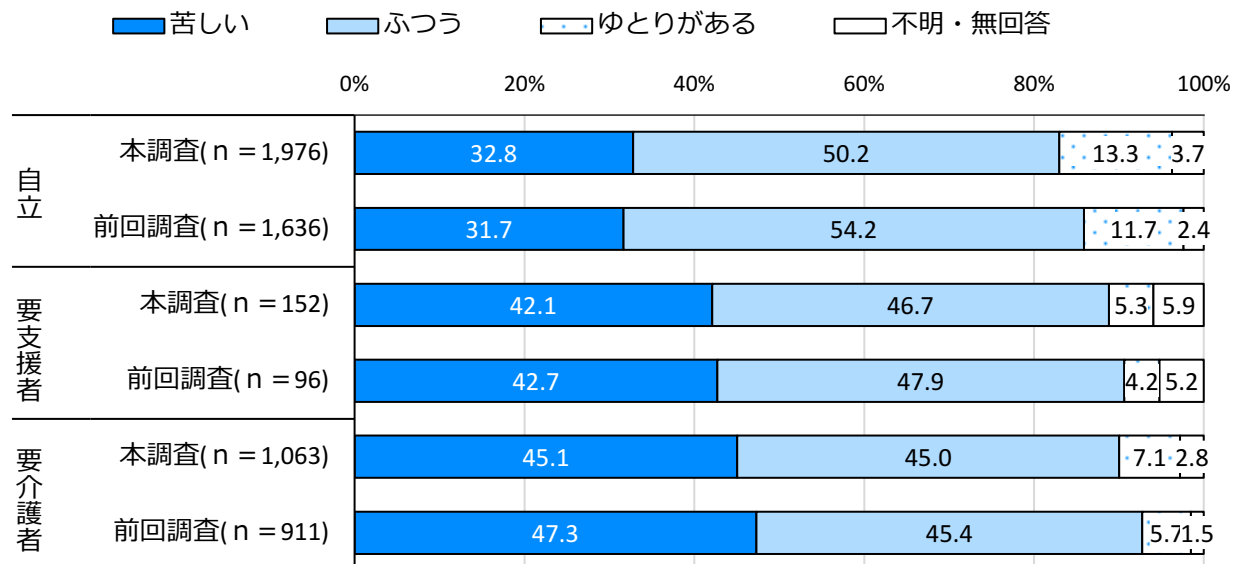
世帯、暮らしの状況

- ▶ 世帯状況は、自立の人・要介護者は「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」、要支援者は「1 人暮らし」が最も多い。
- ▶ 経済状況は、介護状態が重くなるにつれて「苦しい」が多い。

①世帯状況（単数回答）



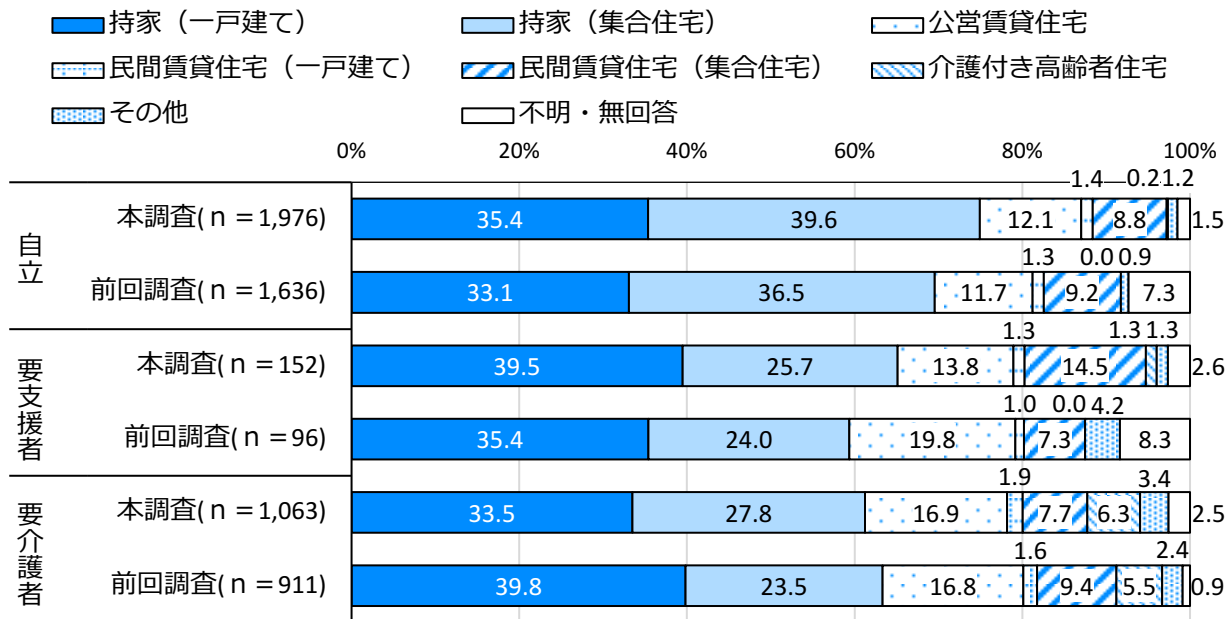
②経済状況（単数回答）



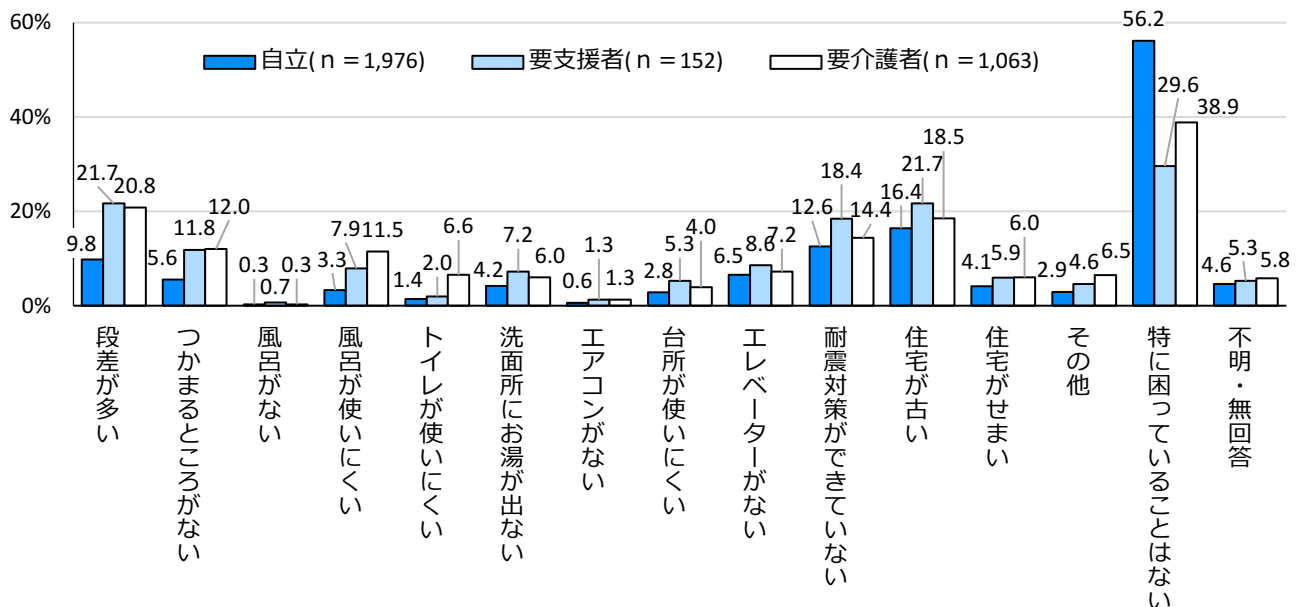
住まいの状況

- ▶ 住まいの形態は、自立の人は「持家（集合住宅）」、要支援者・要介護者は「持家（一戸建て）」が最も多い。
- ▶ 住宅の困りごと、自立の人は「特に困っていることはない」が最も多いが、「つかまるところがない」は要支援者と要介護者で特に多くなっている。

① 住まいの形態（単数回答）



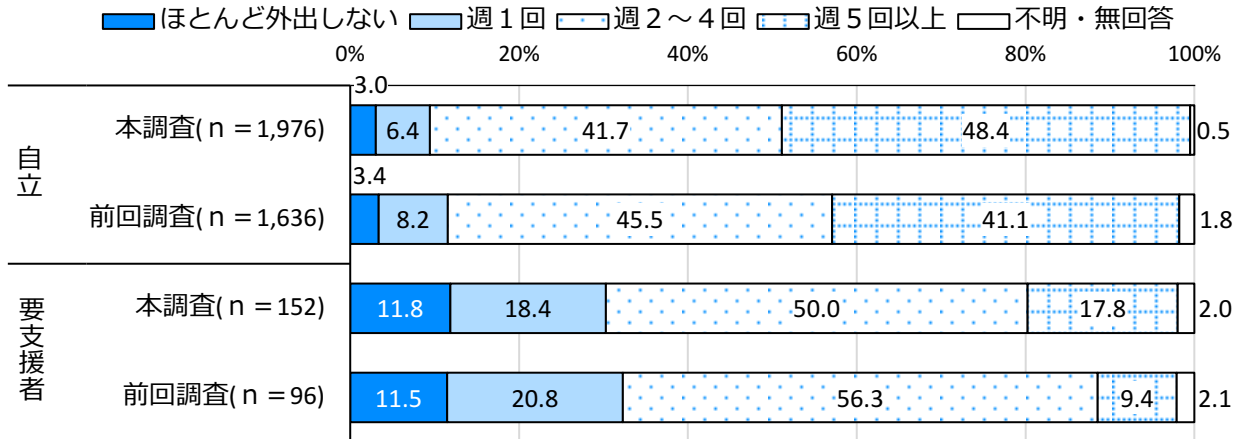
② 住宅の困りごと（複数回答）



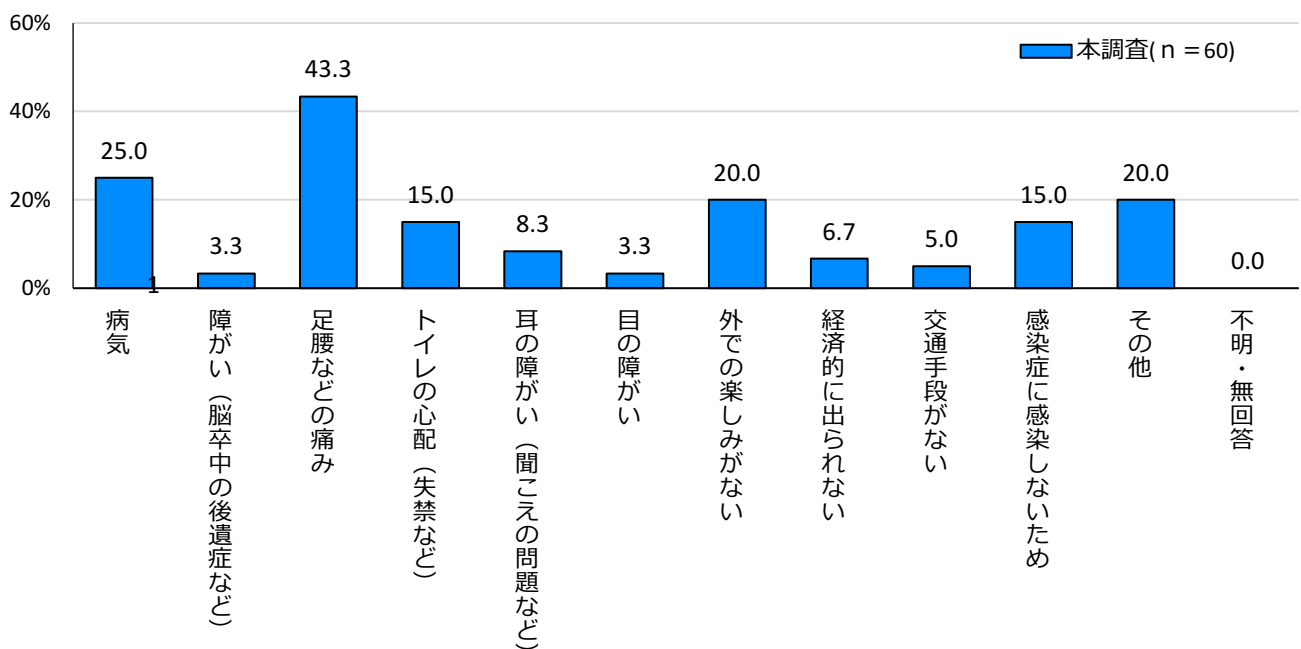
外出の状況

- ▶ 外出状況は、自立の人は「週5回以上」、要支援者は「週2～4回」が最も多い。前回調査と比較すると、自立の人・要支援者ともに「週1回」「週2～4回」が減少し、「週5回以上」が増加。
- ▶ 自立の人に外出を控えている理由は、「足腰などの痛み」が43.3%で最も多い。

①週1回以上の外出状況（単数回答）



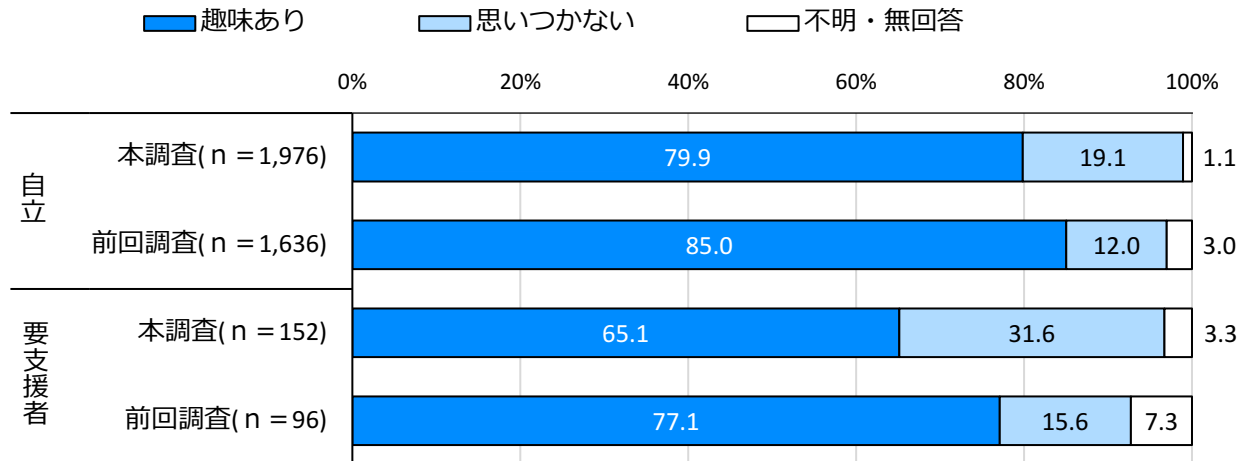
②ほとんど外出しない理由（複数回答） ※自立の人のみ掲載



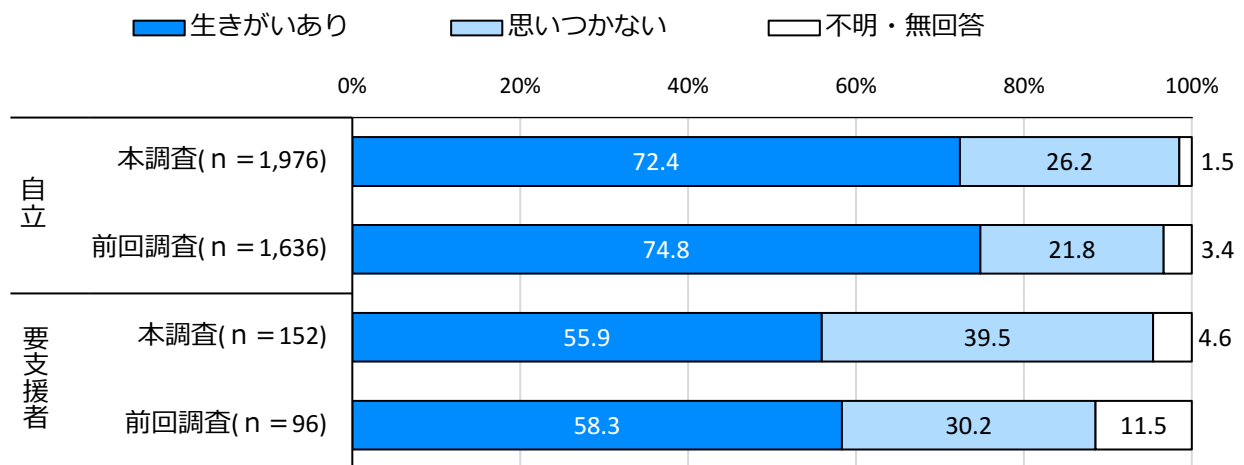
趣味・生きがい

- ▶趣味の有無は、自立の人・要支援者ともに「思いつかない」より「趣味あり」が多いが、前回調査から要支援者は12.0ポイント、自立の人は5.1ポイント減少している。
- ▶生きがいの有無は、自立の人・要支援者ともに「思いつかない」より「生きがいあり」が多いが、前回から、2.4ポイントずつ減少している。

①趣味の有無（単数回答）



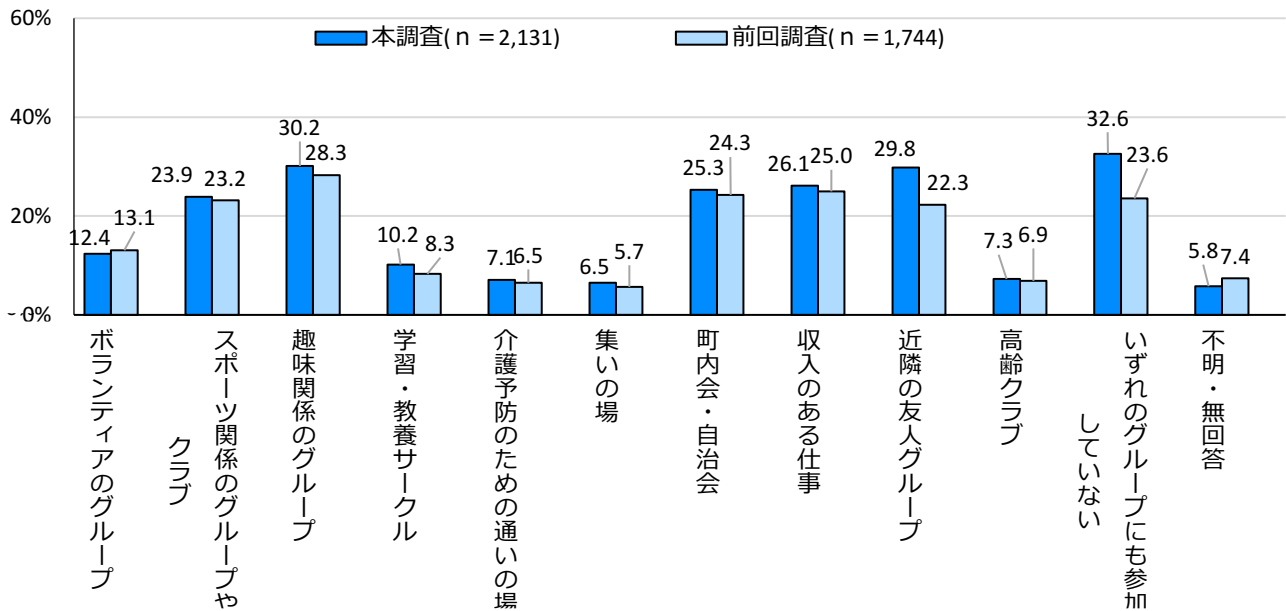
②生きがいの有無（単数回答）



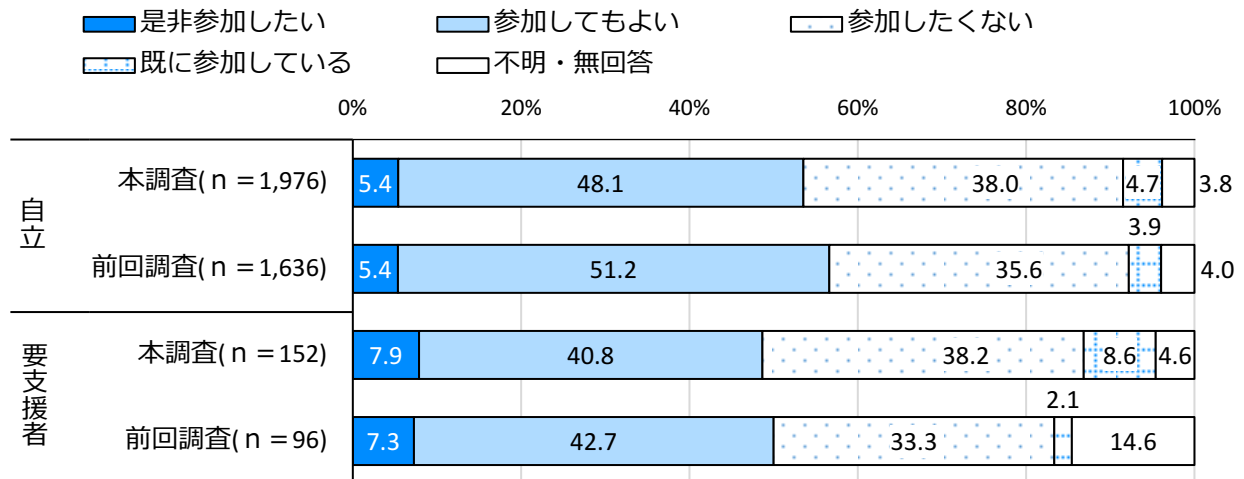
地域活動

- ▶地域活動への参加状況では、「いずれのグループにも参加していない」が32.6%で最多。
- ▶参加している地域活動は「趣味関係のグループ」が最も多い。
- ▶いきいきした地域づくり活動に「参加者」としての参加意向は、自立の人・要支援者ともに「参加してもよい」が最も多い。

①参加している地域活動（複数回答）【高齢者調査】



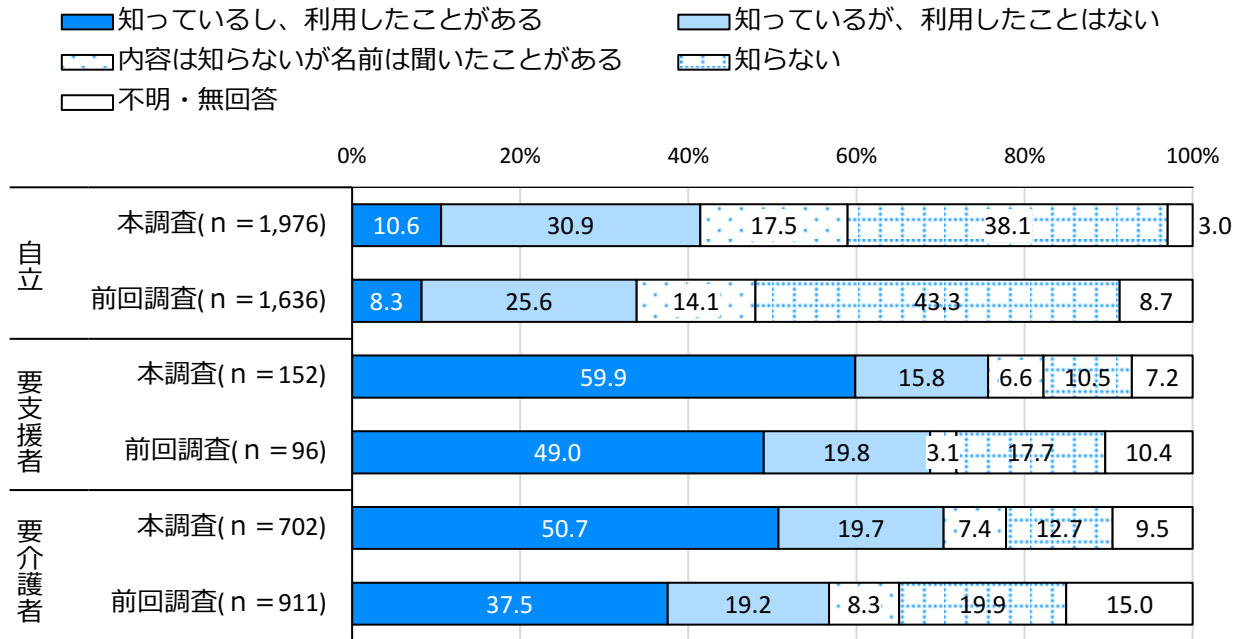
②地域での活動に「参加者」としての参加意向（単数回答）



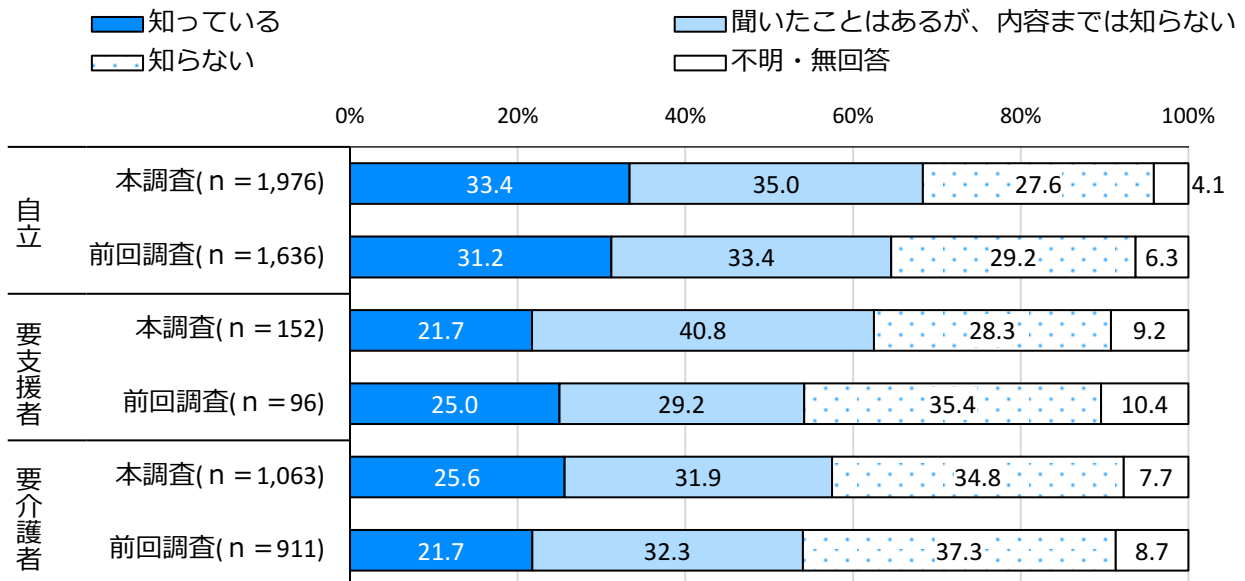
地域包括支援センター・成年後見制度の認知度

- ▶地域包括支援センターの認知度について、「知っているし、利用したことがある」は自立の人で10.6%、要支援者で59.9%、要介護者で50.7%と、要支援者・要介護者では最も多い回答。要支援者・要介護者では「知っているし、利用したことがある」が10ポイント以上増加。
- ▶成年後見制度について、「知っている」は自立の人で33.4%、要支援者で21.7%、要介護者で25.6%。要支援者は「知らない」が前回調査から7.1ポイント減少。

①地域包括支援センターの認知度（単数回答）



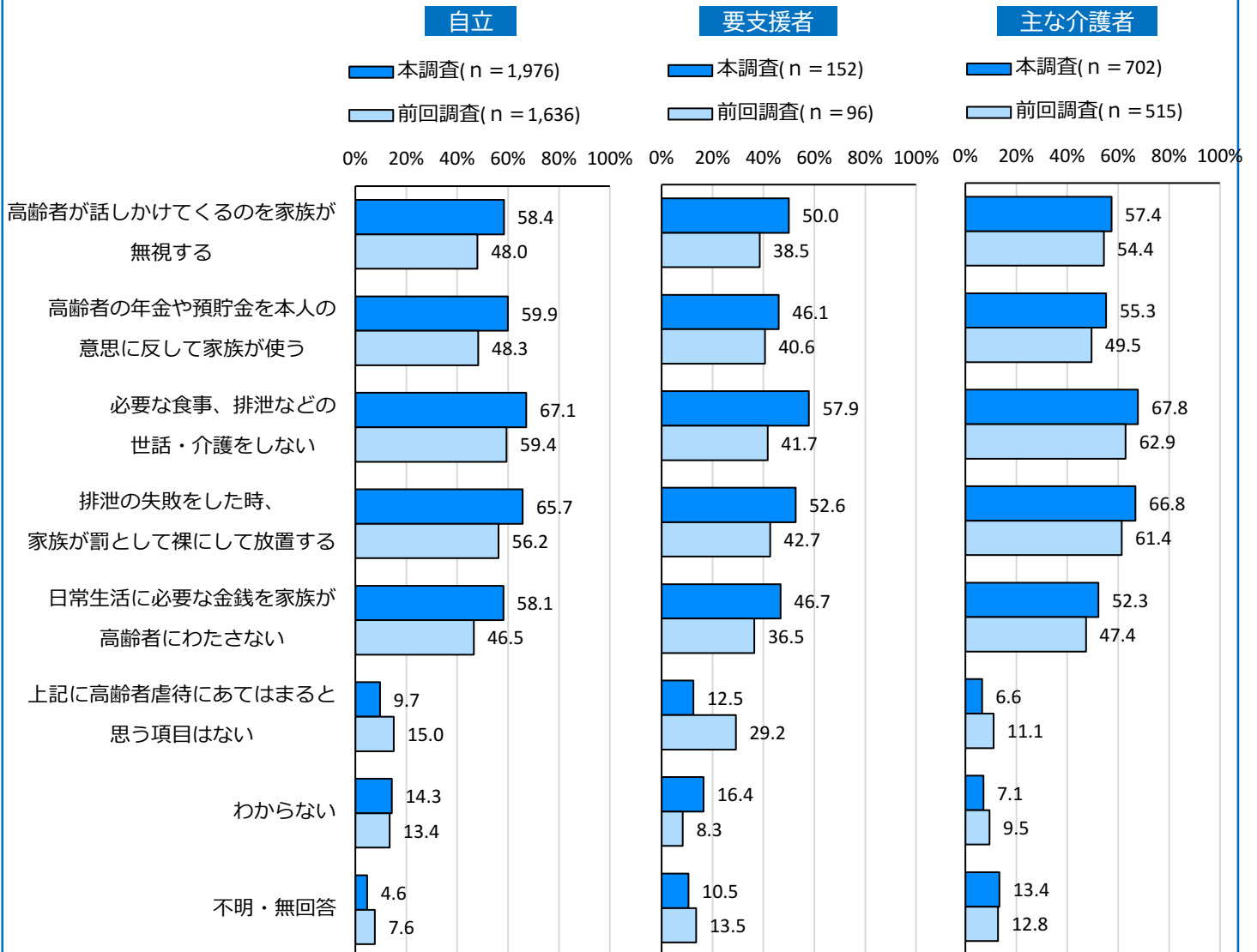
②成年後見制度の認知度（単数回答）



高齢者虐待

- ▶ 高齢者虐待にあてはまるものを尋ねたところ、自立の人・要支援者・主な介護者ともに「必要な食事、排せつなどの世話・介護をしない」が最も多い。
- ▶ 自立の人・要支援者・主な介護者ともに「上記に高齢者虐待にあてはまると思う項目はない」も回答が減っており、高齢者虐待に該当する5項目ともに「虐待に該当する」という回答が増えている。

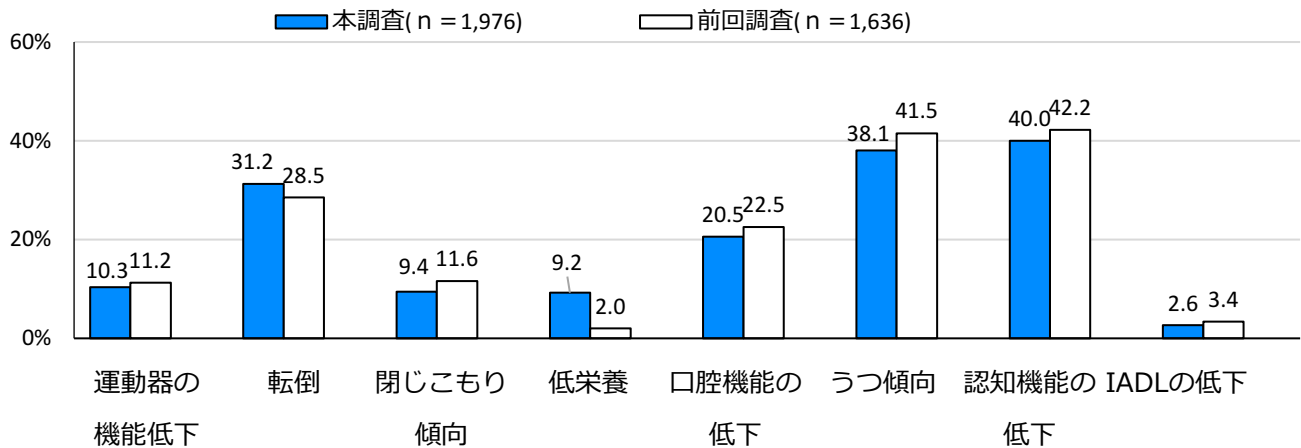
① 高齢者虐待に該当すると思うもの（複数回答）



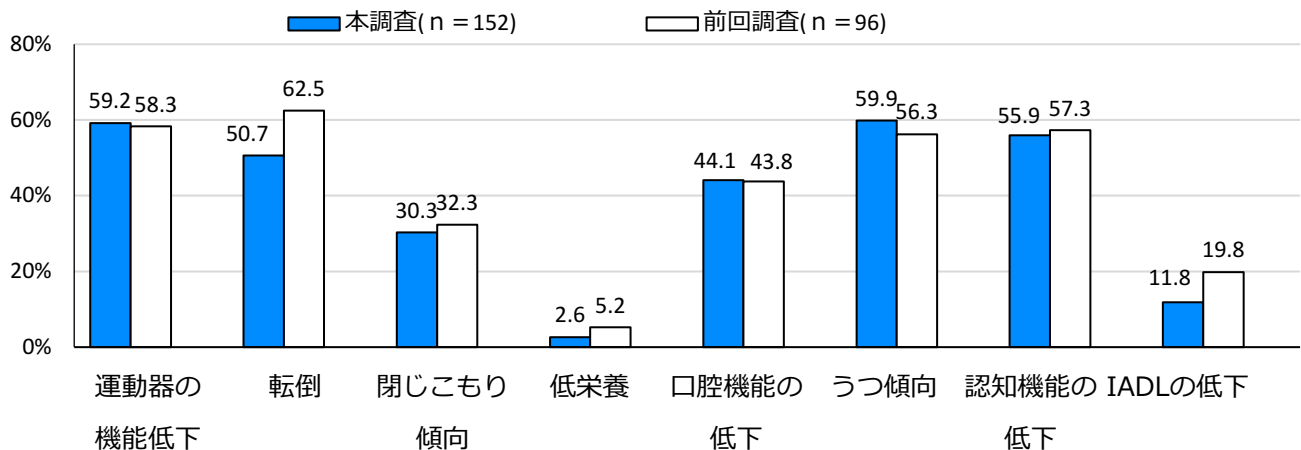
身体機能等、リスク判定結果

- ▶身体機能や認知機能等のリスク判定を行った結果、「リスクあり」の人は自立の人で「認知機能の低下」が40.0%で最も多く、次いで「うつ傾向」が38.1%、「転倒」が31.2%となっており、前回調査と上位3項目についてはほぼ同じ結果。一方で、「低栄養」が前回調査より7.2ポイント増加。
- ▶要支援者のリスク判定結果は、「うつ傾向」が59.9%で最も多く、次いで「運動器の機能低下」が59.2%、「認知機能の低下」が55.9%。「転倒」は前回調査より11.8ポイント減少。

①自立の人のリスク判定結果（リスクありの人）



②要支援者のリスク判定結果（リスクありの人）

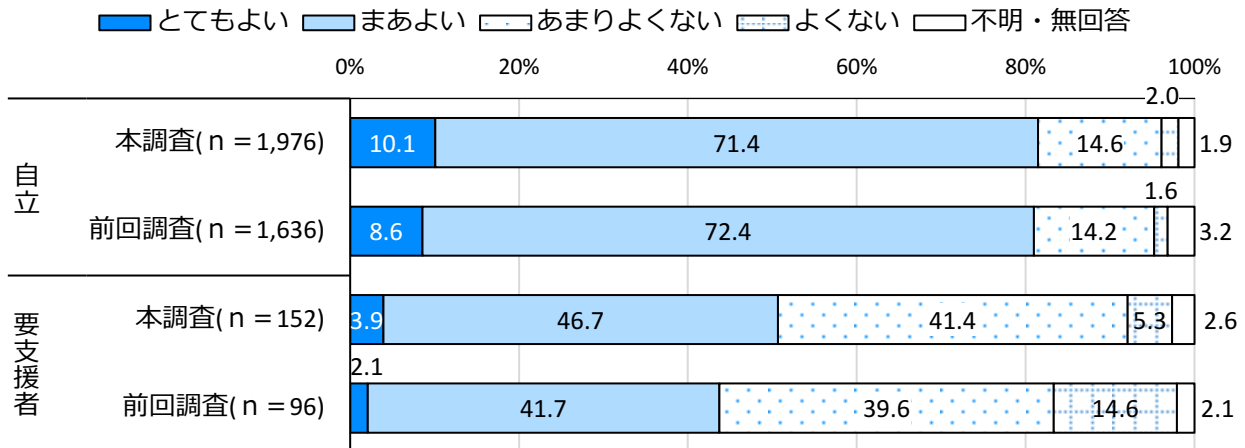


※各項目の算出方法については、p. 23～24 の「参考資料（リスク判定算出方法）」をご確認ください。

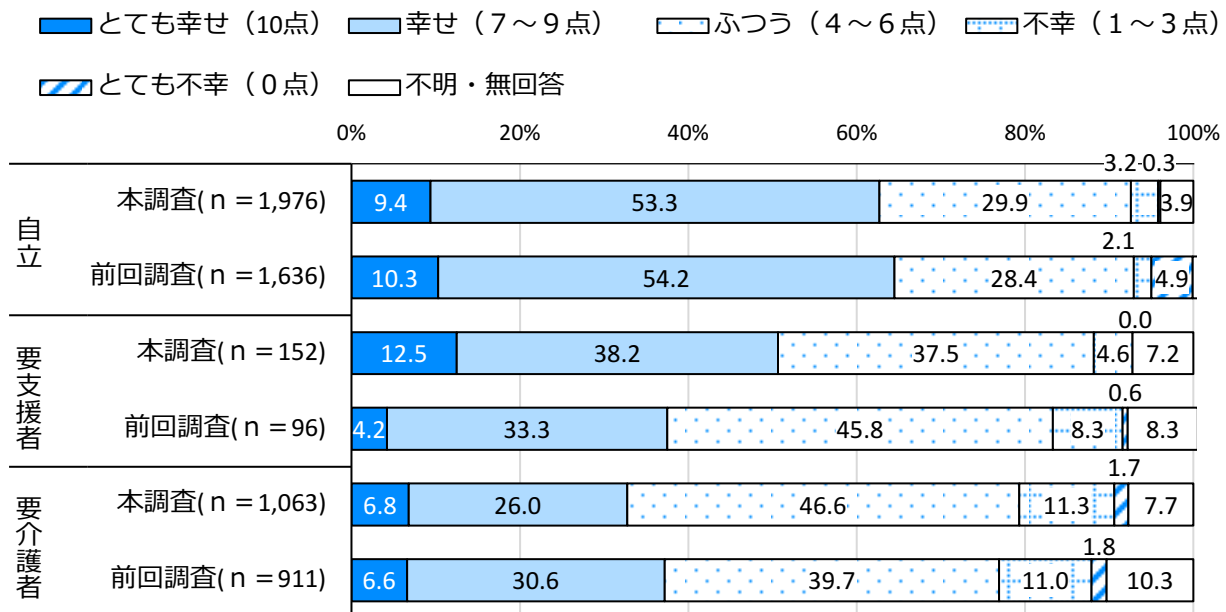
健康・介護予防

- ▶主観的健康観は、自立の人・要支援者ともに「まあよい」が最も多くなっている。また、『よい（「とてもよい」＋「まあよい」の合計）』が、要支援者は自立の人より 30 ポイント以上低い。
- ▶幸福感は、自立の人・要支援者は「幸せ」、要介護者は「ふつう」が最も多い。要支援者は「とても幸せ」が前回調査より 8.3 ポイント増加。

①主観的健康観（単数回答）

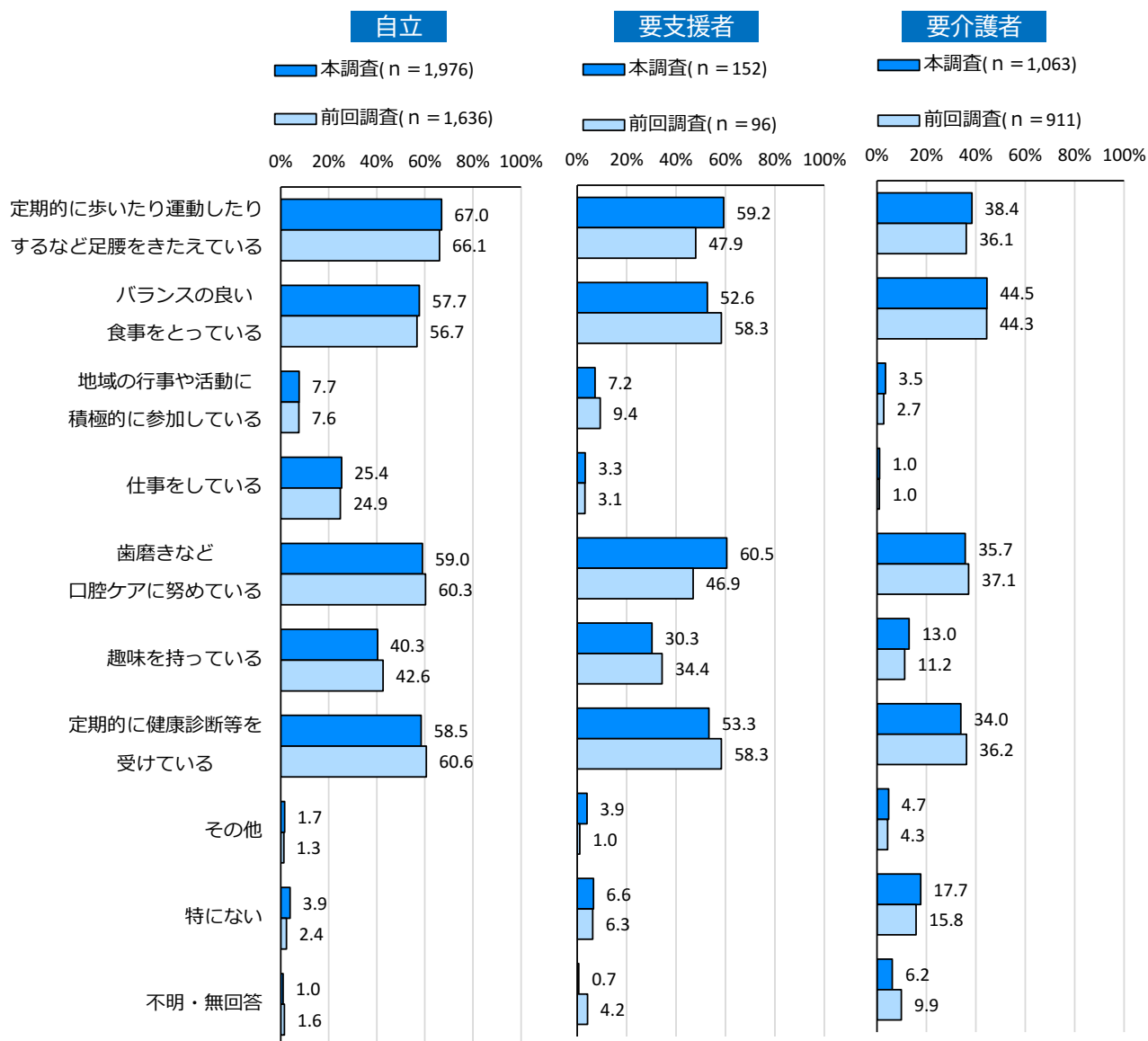


②幸福感（単数回答）



- ▶健康の保持・増進や介護予防で心がけていることは、自立の人は「定期的に歩いたり運動したりするなど足腰をきたえている」、要支援者は「歯磨きなど口腔ケアに努めている」、要介護者は「バランスの良い食事をとっている」が最も多い。
- ▶前回調査と比較すると、要支援者で「定期的に歩いたり運動したりするなど足腰をきたえている」、「歯磨きなど口腔ケアに努めている」は前回調査から 11 ポイント以上増加。

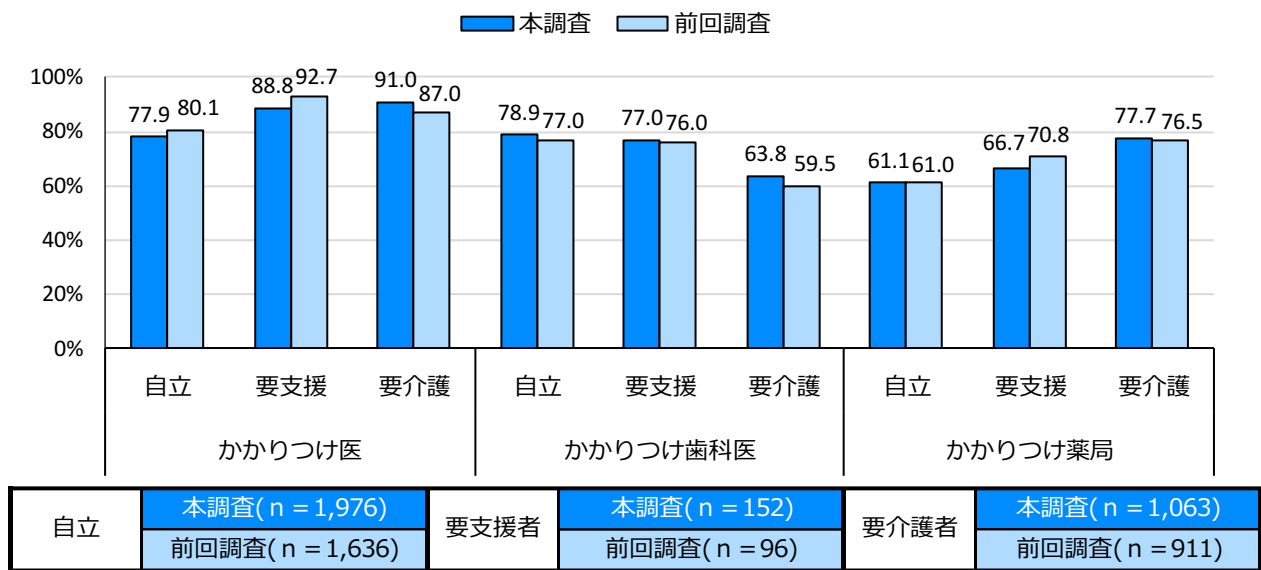
③健康の保持・増進や介護予防のために心がけていること（複数回答）



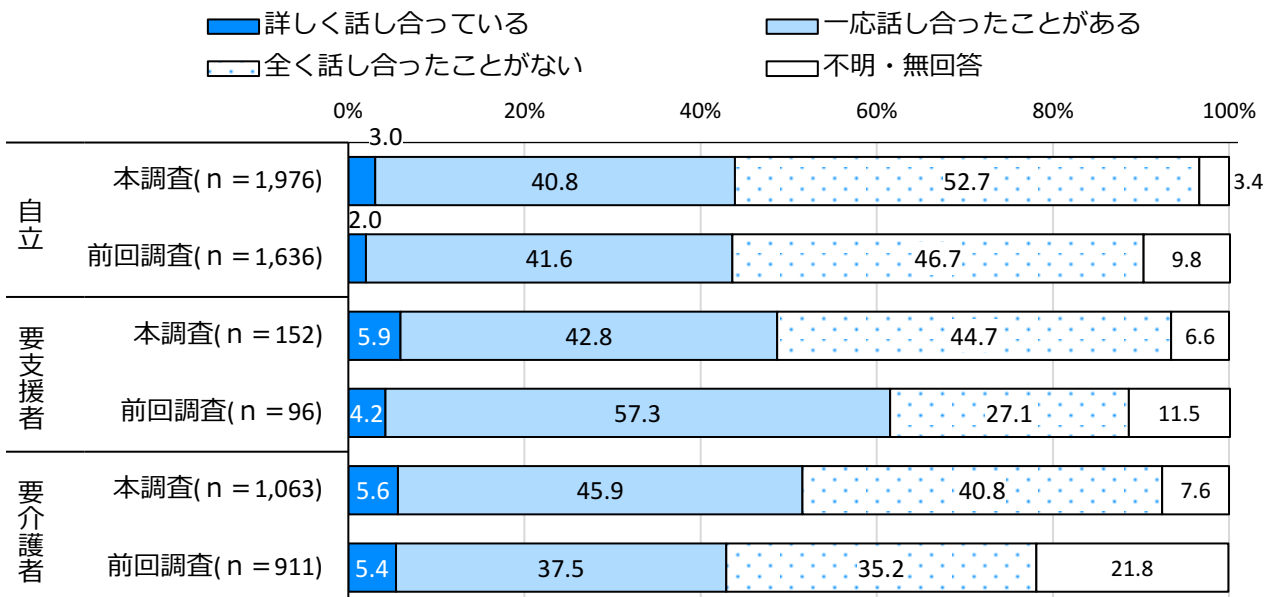
在宅医療

- ▶ かかりつけ医の有無について、「いる」は自立の人で 77.9%、要支援者で 88.8%、要介護者で 91.0%。要介護者は前回調査から「いる」が増加、自立の人・要支援者は減少。
- ▶ かかりつけ歯科医の有無について、「いる」は自立の人で 78.9%、要支援者で 77.0%、要介護者で 63.8%。介護状態に関わらず前回調査から「いる」は増加。
- ▶ かかりつけ薬局の有無について、「決めている」は自立の人で 61.1%、要支援者で 66.7%、要介護者で 77.7%。前回調査と比較すると、要支援のみ「いる」は減少。
- ▶ 人生の最終段階における医療・療養について話し合ったことは、自立の人・要支援者は「全く話し合ったことがない」、要介護者は「一応話し合ったことがある」が最も多い。自立の人・要支援者・要支援者ともに「全く話し合ったことがない」が前回調査から 5 ポイント以上増加。

① かかりつけ医・歯科医・薬局の有無（各項目、単数回答）



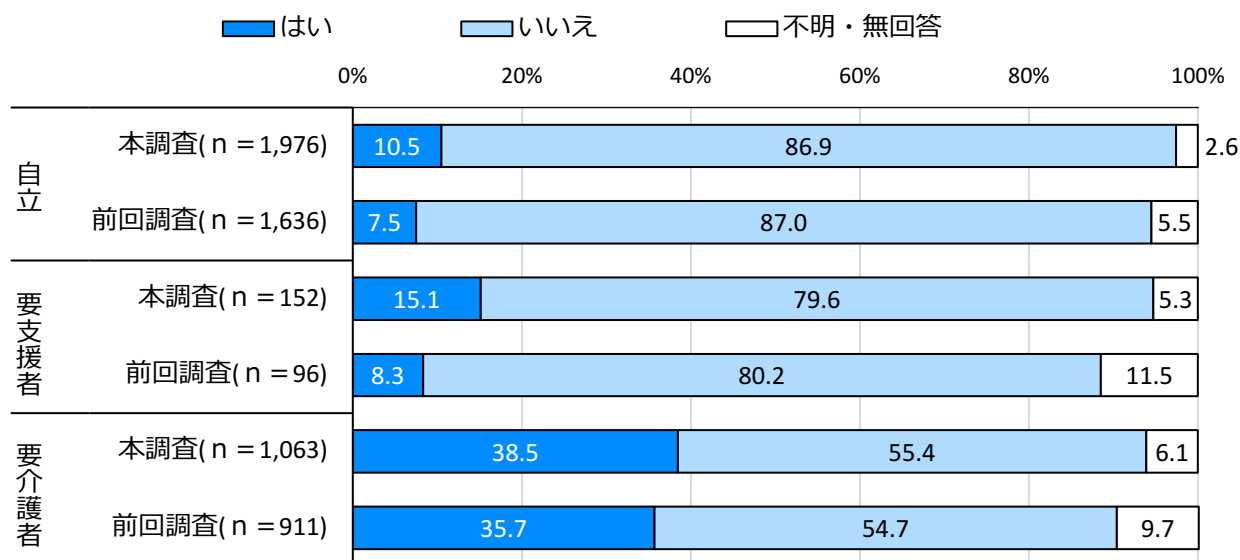
② 人生の最終段階における医療・療養について話し合ったことの有無（単数回答）



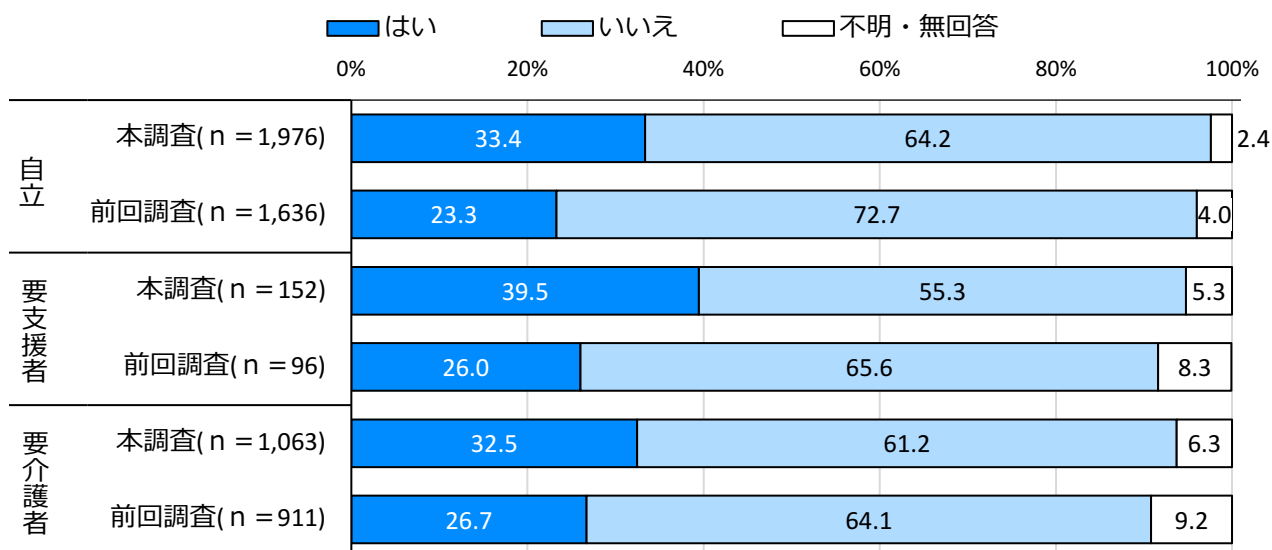
認知症

- ▶ご自身やご家族に認知症の人がいるか尋ねたところ、「はい」は自立の人で 10.5%、要支援者で 15.1%、要介護者で 38.5%。前回調査より要支援者は 6.8 ポイント増加。
- ▶認知症の相談窓口を知っているか尋ねたところ、「はい」は自立の人で 33.4%、要支援者で 39.5%、要介護者で 32.5%。前回調査より要介護者は 5.8 ポイント、自立の人・要支援者では 10 ポイント以上増加。

①ご自身やご家族の認知症症状の有無（単数回答）

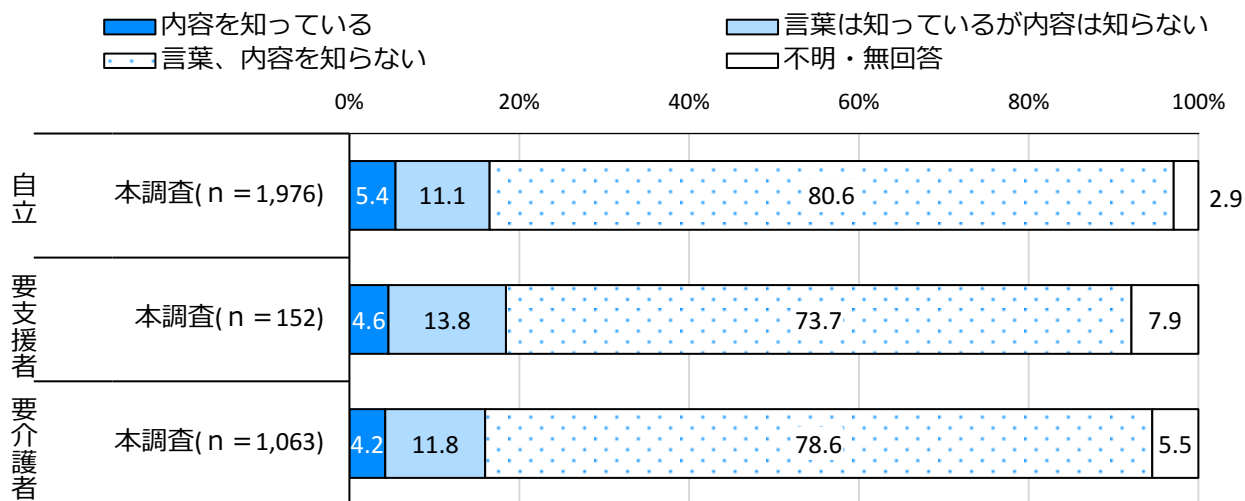


②認知症の相談窓口の認知度（単数回答）



- ▶「新しい認知症観」を知っているか尋ねたところ、自立の人・要支援者・要介護者ともに「言葉、内容を知らない」が最も多い。

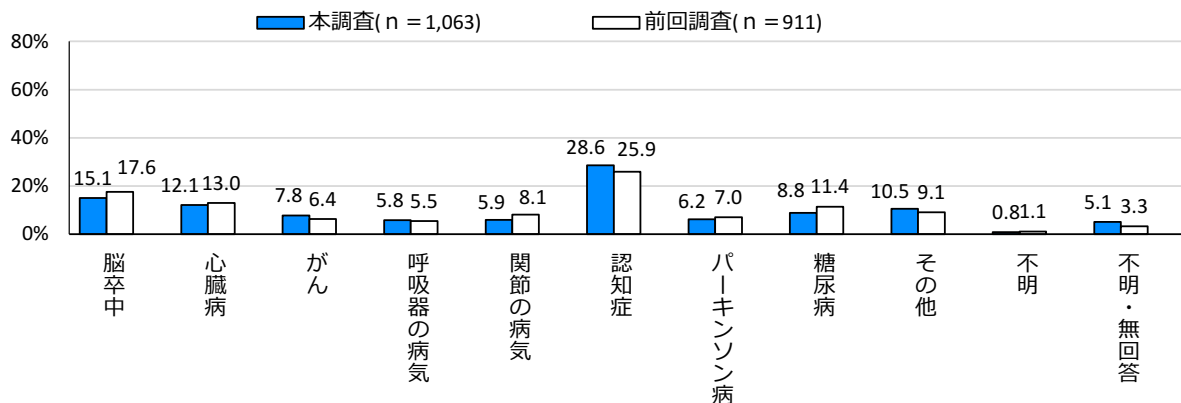
③「新しい認知症観」の認知度（単数回答）



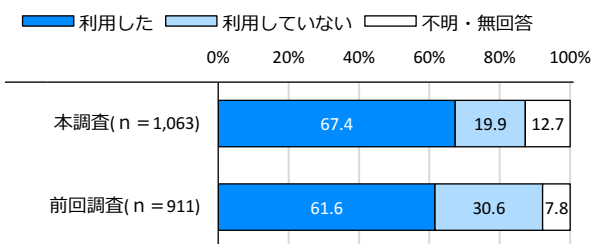
介護保険サービス【要介護認定者】

- ▶介護・介助が必要になった原因は、「認知症」が28.6%で最も多く、次いで「脳卒中」が15.1%、「心臓病」が12.1%。
- ▶介護保険サービスの利用状況は、「利用した」が67.4%、「利用していない」が19.9%。「利用していない」は前回調査より10.7ポイント減少。
- ▶利用したサービスは「通所介護」が51.8%で最も多く、次いで「訪問介護」が38.4%。
- ▶利用している介護保険サービス全体を通しての満足度は、「満足」が70.7%、次いで「どちらともいえない」が12.3%、「不満」が2.0%。

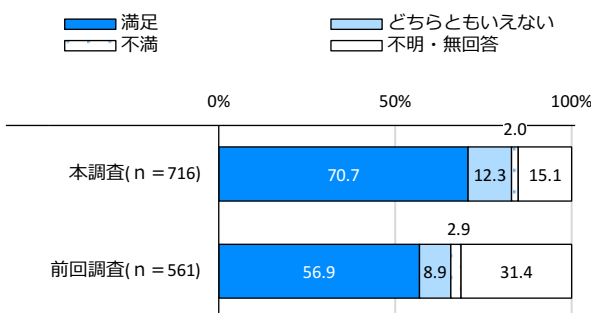
①介護・介助が必要になった原因（複数回答）



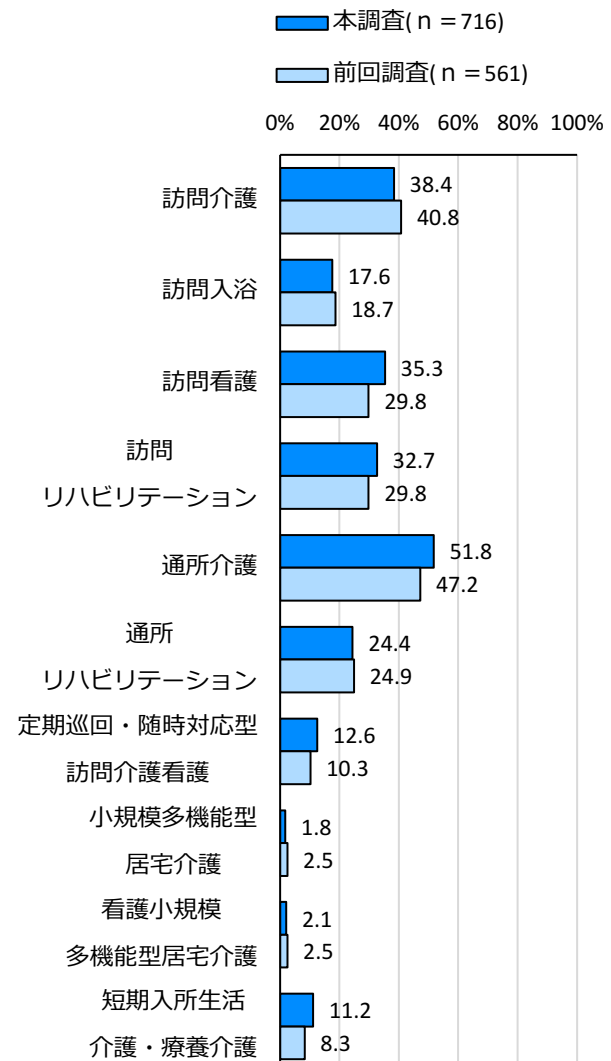
②介護保険サービスの利用状況（単数回答）



④サービス全体の満足度（単数回答）



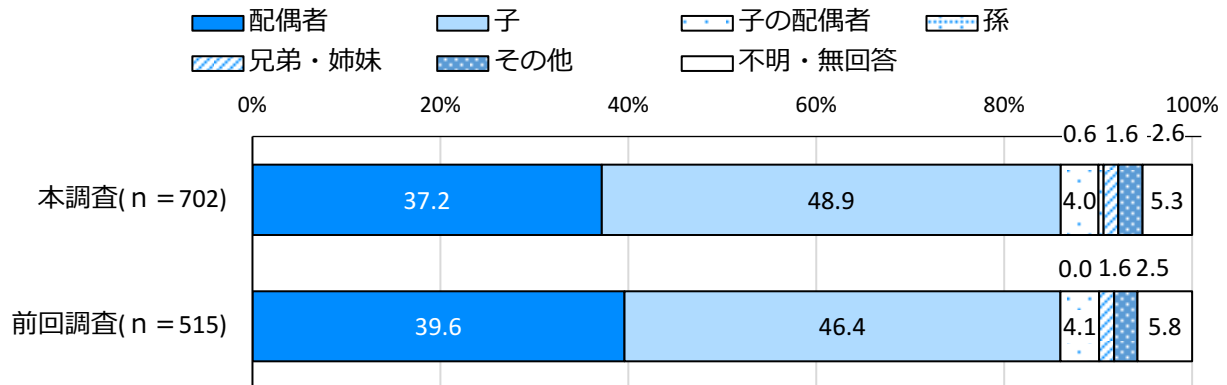
③利用したサービス（複数回答）



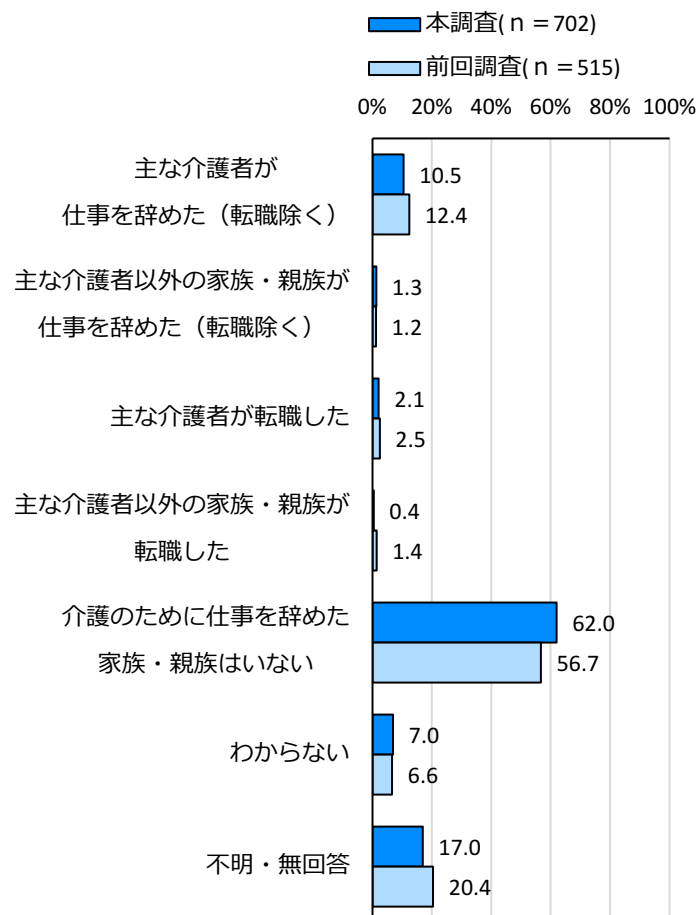
介護者の状況

- ▶ 主な介護者は、「子」が48.9%で最も多く、次いで「配偶者」が37.2%。
- ▶ 介護を理由とした離職状況は、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が62.0%で最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が10.5%。

① 主な介護者（単数回答）

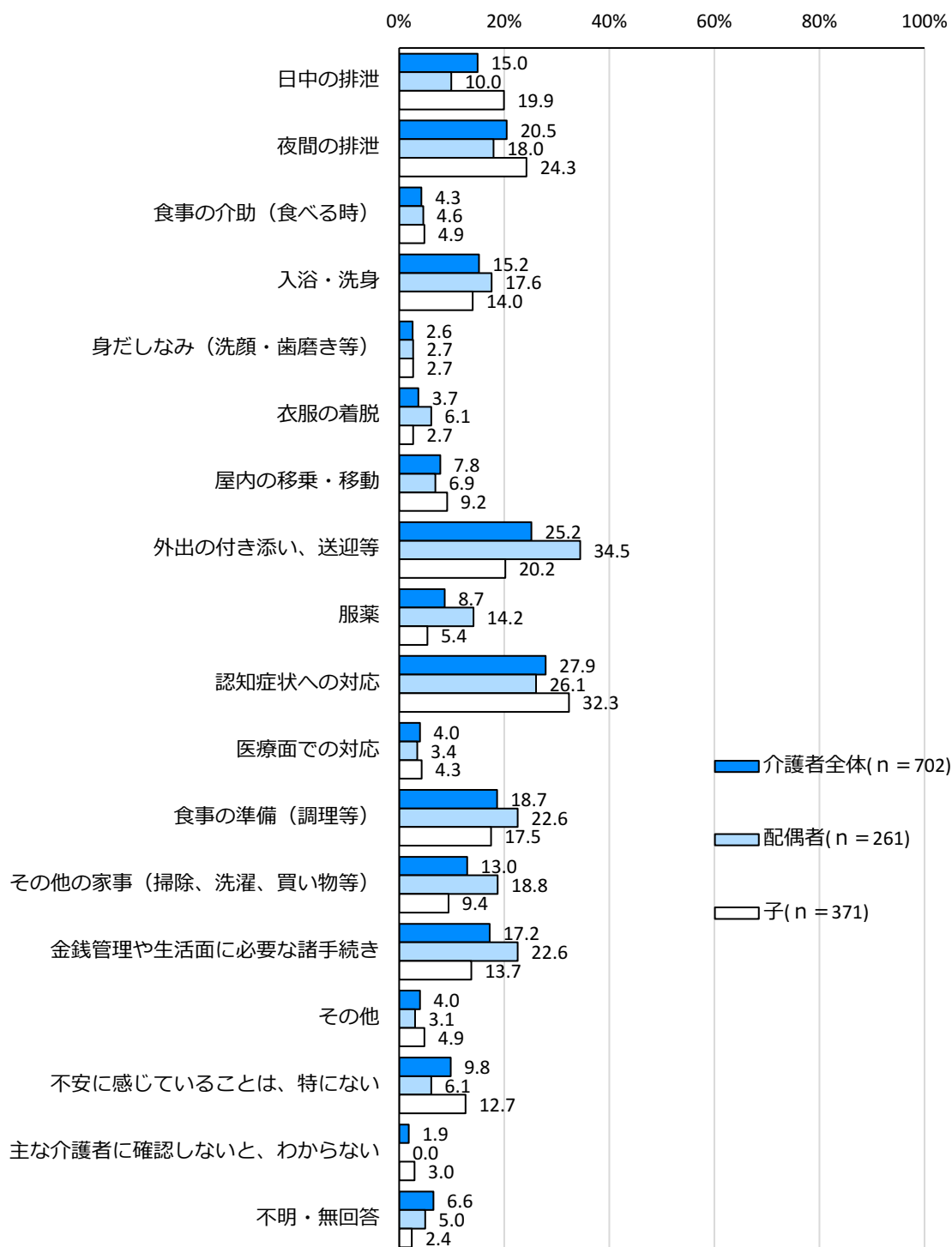


② 介護を理由とした離職状況（複数回答）



- ▶ 主な介護者が不安に感じる介護の内容は、「認知症状への対応」が 27.9%で最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 25.2%、「夜間の排泄」が 20.5%。
- ▶ 主な介護者別にみると、配偶者は「外出の付き添い、送迎等」、子は「認知症状への対応」が最も多い。

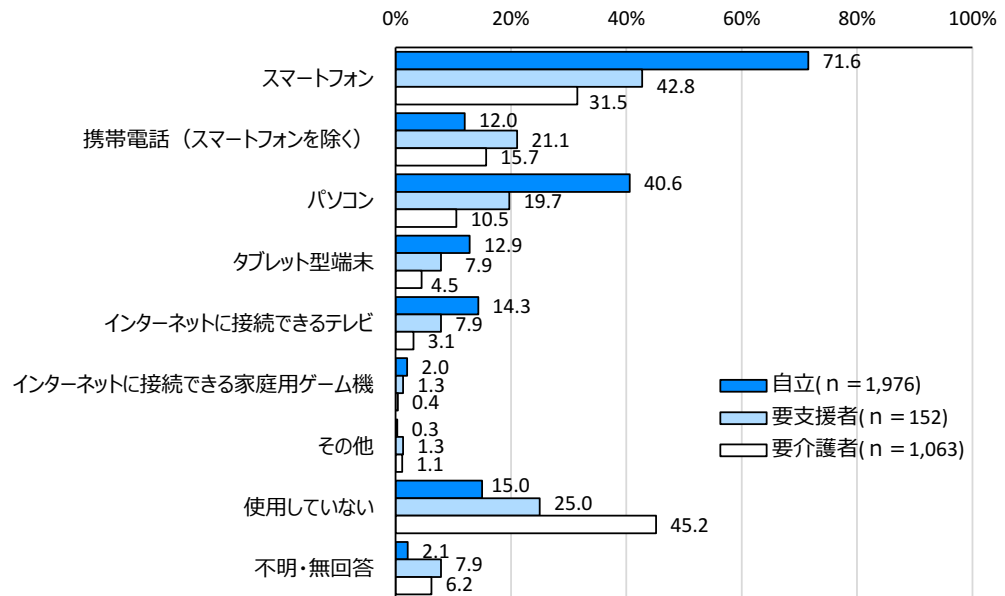
③主な介護者が不安に感じる介護の内容（複数回答）



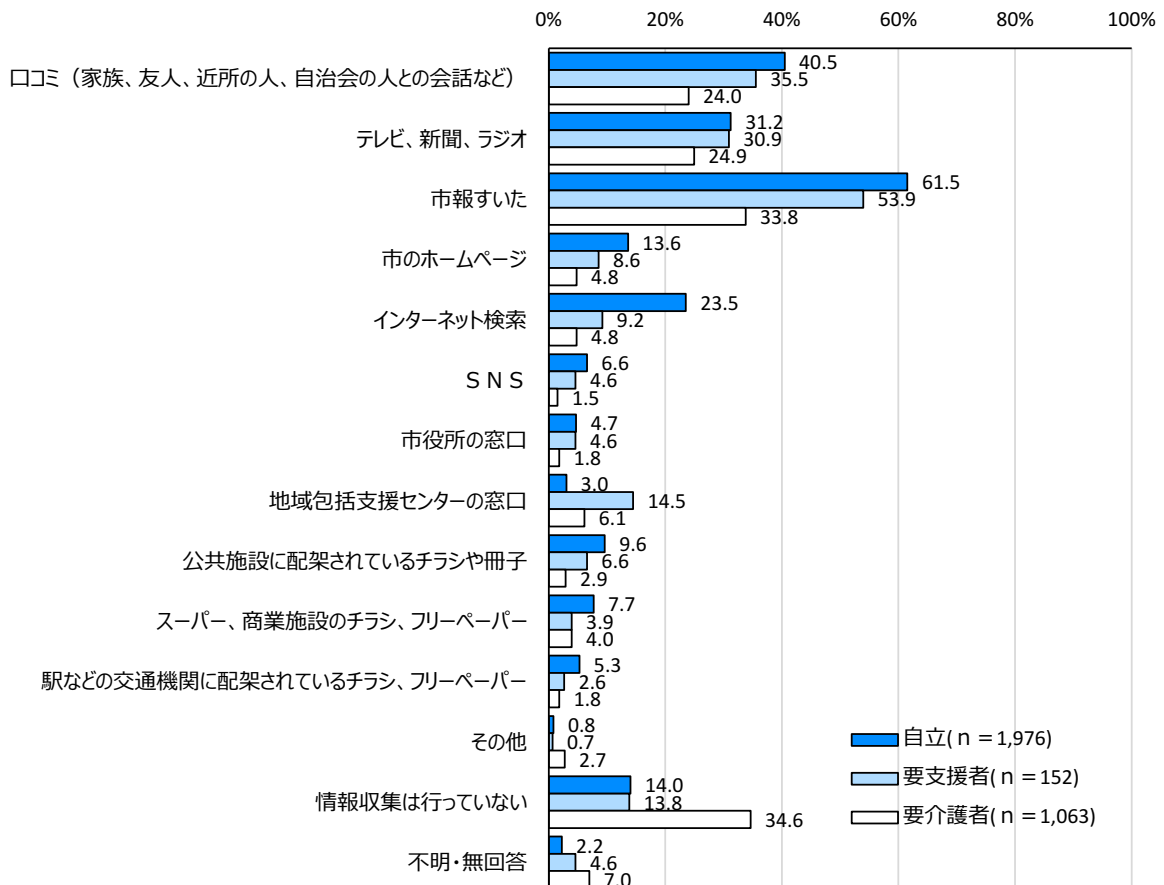
情報収集

- ▶ インターネットに接続できる情報端末の使用状況は、自立の人・要支援者は「スマートフォン」、要介護者は「使用していない」が最も多い。
- ▶ 介護や生活支援などの行政サービスの情報収集をしている人が使っている手段は、介護状態に関わらず「市報すいた」が最も多く、自立の人は6割を超える。「インターネット検索」は自立で23.5%と、要支援者・要介護者より2倍以上多い。また、要支援者では「地域包括支援センターの窓口」の回答が、要介護者では「情報収集は行っていない」が最も多い回答となっている。

① インターネットに接続できる情報端末の使用状況（複数回答）



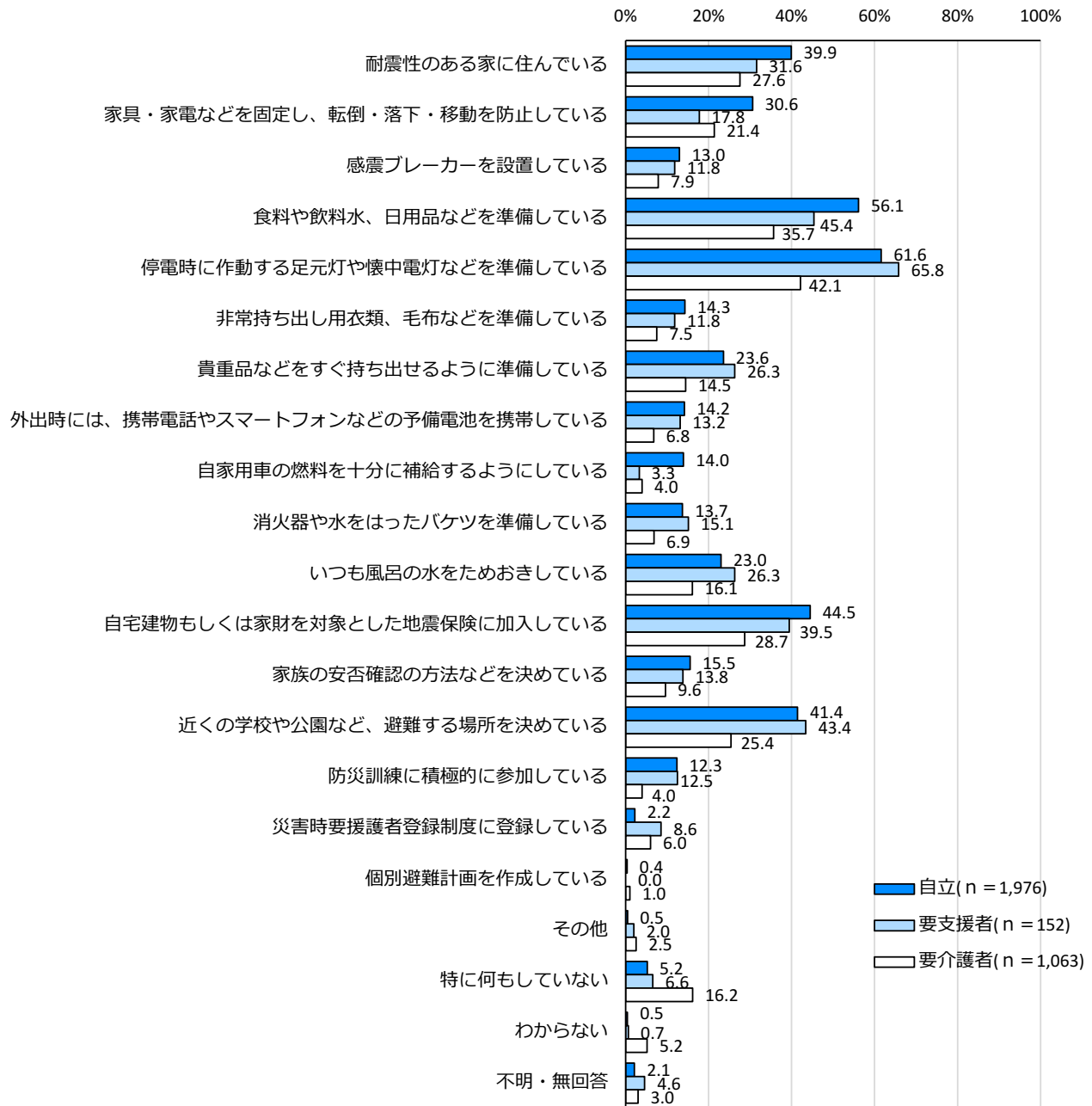
② 介護や生活支援などの行政サービスの情報収集手段（複数回答）



防災

▶災害に備えた対策は、自立・要支援者、要介護者ともに「停電時に作動する足元灯や懐中電灯などを準備している」が最も多い。ほとんどの項目で自立・要支援者より要介護者の割合が少ない。

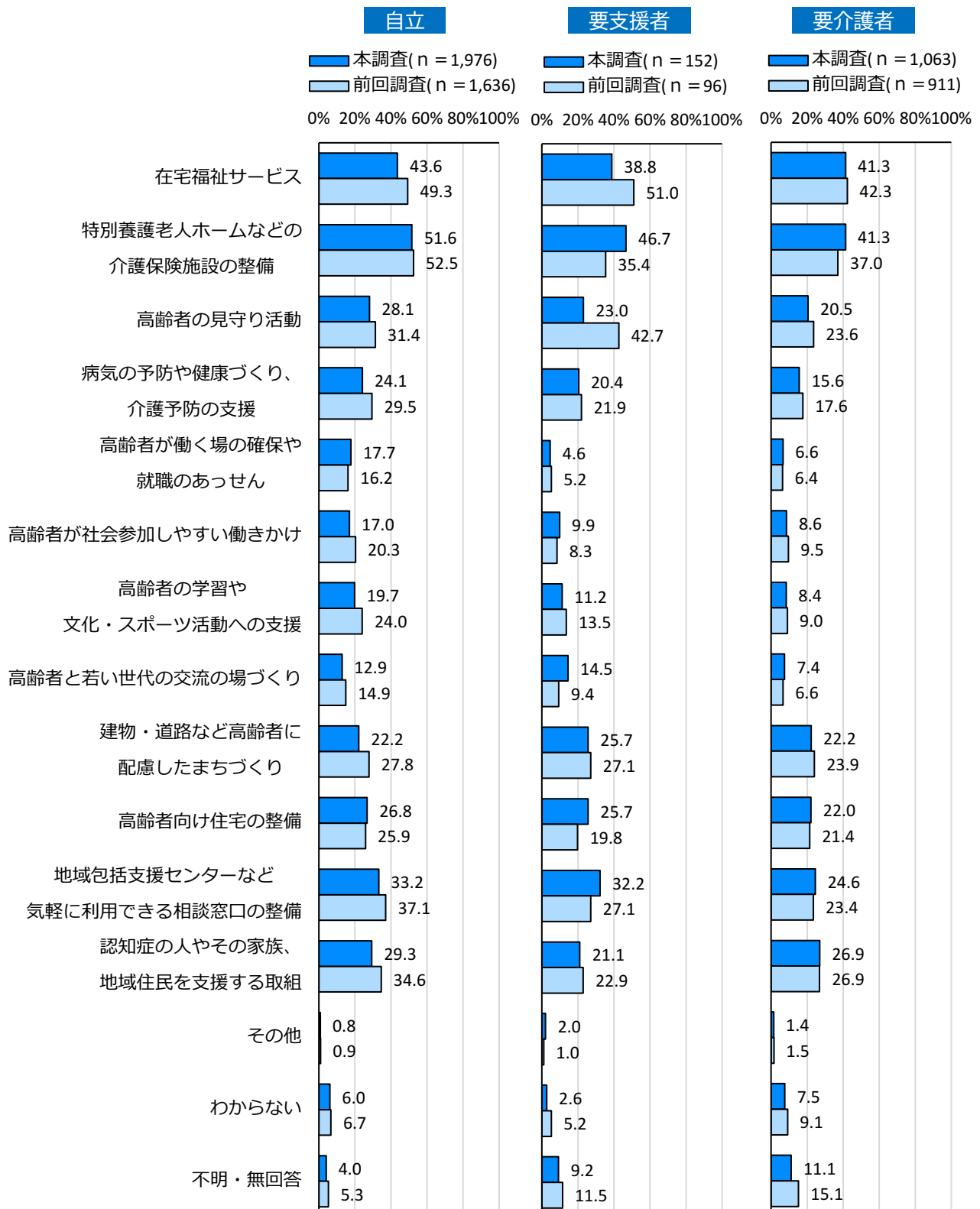
①災害に備えた対策（複数回答）



望む高齢者保健福祉施策

- ▶ 望む高齢者保健福祉施策は、自立の人・要支援者は「特別養護老人ホームなどの介護保険施設の整備」、要介護者は「在宅福祉サービス」「特別養護老人ホームなどの介護保険施設の整備」が同率で最も多い。
- ▶ 「在宅福祉サービス」は自立の方・要支援者で、前回調査から5ポイント以上減少、「高齢者の見守り活動」は要支援者で、19.7ポイント減少。

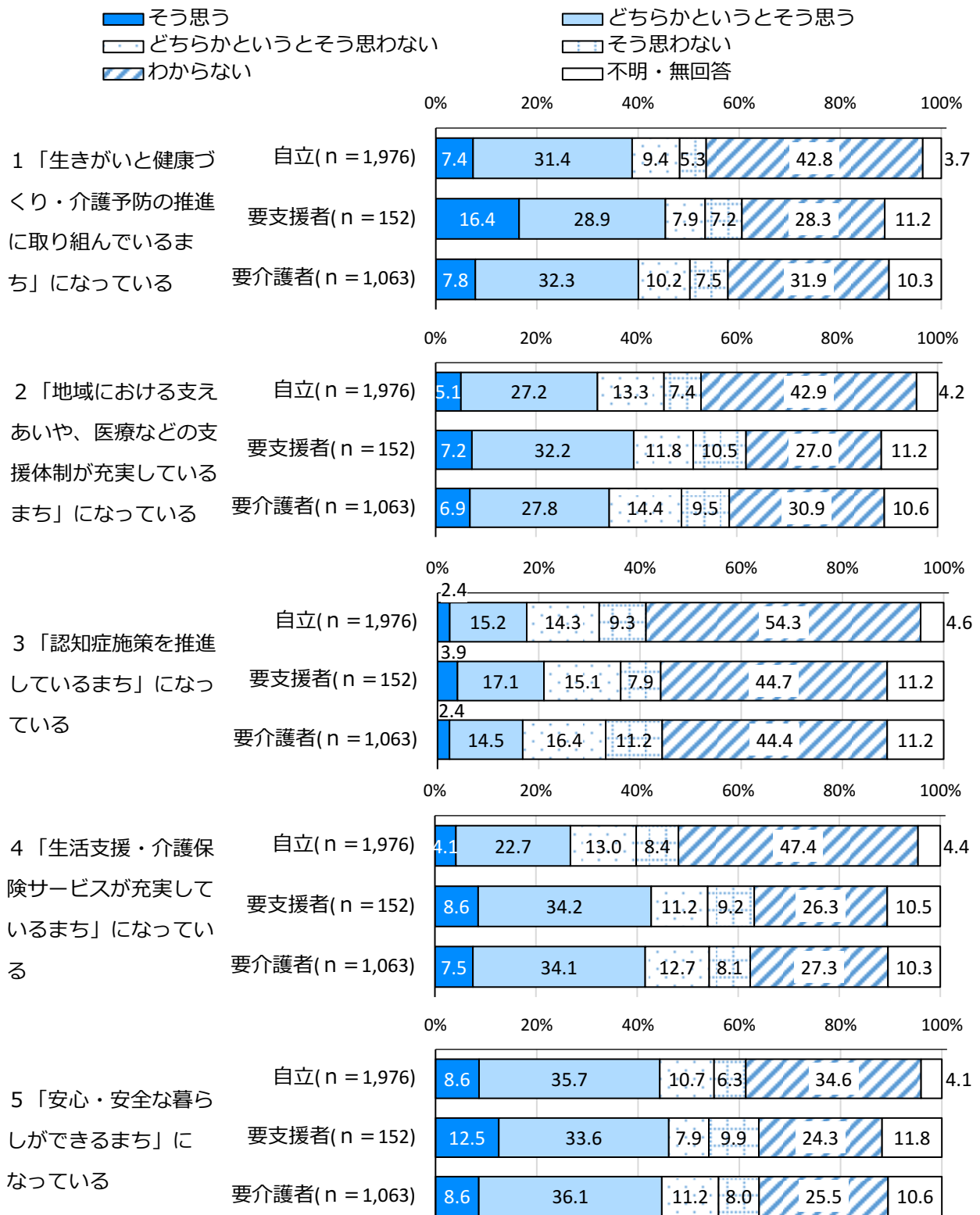
①望む高齢者保健福祉施策（複数回答）



めざまちの姿に対する評価

- ▶吹田健やか年輪プランで掲げる5つの基本目標に対する評価（「そう思う」と「どちらかというそう思う」と答えた人）で最も高い評価は、自立・要支援者、要介護者ともに「安心・安全な暮らしができるまち」になっている」。
- ▶最も低い評価は、自立・要支援者、要介護者ともに「認知症施策を推進しているまち」になっている」であるが、他と比べて「分からない」の回答が多い。

①めざまちの姿に対する評価



参考資料（リスク判定算出方法）

◆運動器の機能低下リスク

【運動器の機能低下リスクの判定方法】

以下の設問に対して5問中3問以上該当する場合は、運動器機能の低下している高齢者となります。

設問	選択肢
階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	できない
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	できない
15分位続けて歩いていますか	できない
過去1年間に転んだ経験がありますか	何度もある／1度ある
転倒に対する不安は大きいですか	とても不安である／ やや不安である

◆転倒リスク

【転倒リスクの判定】

以下の設問に対して該当する場合は、転倒リスクのある高齢者となります。

設問	選択肢
過去1年間に転んだ経験がありますか	何度もある／1度ある

◆閉じこもりのリスク

【閉じこもりのリスクの判定】

以下の設問に対して該当する場合は、閉じこもり傾向のある高齢者となります。

設問	選択肢
週に1回以上は外出していますか	ほとんど外出しない／週1回

◆認知機能の低下リスク

【認知機能の低下リスクの判定】

以下の設問に対して該当する場合は、認知機能の低下がみられる高齢者となります。

設問	選択肢
物忘れが多いと感じますか	はい

◆口腔機能の低下リスク

【口腔機能の低下リスクの判定】

以下の設問に対して3問中2問該当する場合は、口腔機能の低下している高齢者となります。

設問	選択肢
【咀嚼機能低下】半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	はい
【嚥下機能低下】お茶や汁物等でむせることがありますか	はい
【肺炎発症リスク】口の渇きが気になりますか	はい

◆うつリスク

【うつリスクの判定】

以下の設問に対して2問中いずれか1つでも該当する場合は、うつ傾向の高齢者となります。

設問	選択肢
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	はい
この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	はい

◆手段的自立度（IADL）

【手段的自立度（IADL）の判定方法】

以下の設問を5点満点で判定し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価。

設問	選択肢	配点
バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	できるし、している／ できるけどしていない	1点
自分で食品・日用品の買い物をしていますか	できるし、している／ できるけどしていない	1点
自分で食事の用意をしていますか	できるし、している／ できるけどしていない	1点
自分で請求書の支払いをしていますか	できるし、している／ できるけどしていない	1点
自分で預貯金のおし入れをしていますか	できるし、している／ できるけどしていない	1点

※手段的自立度（IADL）とは、『手段的日常生活動作』と訳され、日常生活を送る上で必要な動作のうち、買い物や洗濯、掃除等の家事全般や、金銭管理や服薬管理、外出して乗り物に乗ることなどを指します。

◆低栄養リスク

【低栄養リスクの判定】

以下の設問に対して2問中2問該当する場合は、低栄養状態にある高齢者となります。

設問	選択肢
身長・体重から算出される BMI（体重（kg）÷身長（m） ² ）	18.5 未満
6か月間で2～3 kg 以上の体重減少がありましたか	はい

第 10 期吹田健やか年輪プラン

(吹田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画) にかかる

高齢者等の生活と健康に関する調査報告書

【ダイジェスト版】